

令和4年度 学校評価アンケート結果について(考察)

I 生徒アンケートより

今年度から紙媒体を廃し、1人1台タブレットから Forms によるアンケート実施に変更した。回答率は90.8%（昨年度92.9%）で、昨年度と同じ19の問いを設けた。そのうち9問で昨年度と比べて3ポイント以上評価が向上（昨年度比2問増）し、7問で大きな変化は見られず、3問（昨年度比2問減）で評価が悪くなった。アンケート結果は、評価の向上と現状維持が84%を占めた。

（評価が向上した項目）

- ⑧『自分は、清掃活動にまじめに取り組んでいる』の「よくあてはまる」は（44%→51%）と7ポイント伸び、肯定的評価が初めて90%を超えた。今年度からすべての掃除場所に教師を配置する清掃分担・配置に変更したこと等が向上の要因としてあげられる。
- ⑩『自分は部活動に一生懸命取り組んでいる』の肯定的評価の合計が（86%→91%）となり、R2年度と比較すると10ポイント上昇し、初めて90%を超えた。コロナ禍が3年続いたが、年々各種大会や演奏会等が制限付きではあるものの開催されるようになり、生徒に充実感をもたらせたのではないかと考える。
- ⑪『自分は、学校行事や生徒会活動に一生懸命取り組んでいる』の「よくあてはまる」は（48%→57%）と9ポイント伸びた。⑩の要因と同様に、今年度になり、様々な学校行事が、制限付きではあるが開催されるようになったことが評価の向上につながったと思われる。
- ⑫『自分は、周囲の人への「感謝」の気持ちを常にもっている』の肯定的評価合計が95%となり、すべての設問の中で最高ポイントとなった。否定的評価の合計も5ポイント減少の4%となった。教育目標に掲げている内容であり、毎年生徒への浸透が深まっていることがうかがえ、大変嬉しい結果となった。
- ⑭『先生は、分かりやすい授業をしてくれる』の肯定的回答合計が（87%→94%）7ポイント上がり、初めて90%を超え、否定的回答合計が（10%→3%）7ポイント下がった。肯定的評価の合計は過去4年間で見ると（81%→84%→87%→94%）と年を追って向上し続けている。今後も1人1台タブレット活用等の新たな授業形態の工夫の研究を深めていきたい。
- ⑮『先生は、自分の悩みなどの相談に適切に応じていると思う』では昨年度に肯定的評価合計が下がった項目であったが、大幅（17ポイント）に改善されたR2年度の水準に戻すことができた。ただ、否定的評価合計がまだ1割あることが大きな課題と捉えている。生徒に寄り添う対応のさらなる充実を目ざして取り組まなければならない。
- ⑯『先生は、いじめなどのない楽しい学級づくりや仲間づくりに努めていると思う』の肯定的評価の合計が初めて90%に到達した。否定的評価の合計も4ポイント減少して4%となった。この評価は私たちの取組に力をくれる評価である。今後も継続して取り組んでいきたい。ただし、⑮と同様に4%の生徒が十分でないと感じていることが重要である。さらに否定的評価を0%とする取組を継続していかなければならない。
- ⑰『学校はいのちの大切さを考える学習や人権学習に力を入れていると思う』では⑮と同様に昨年度肯定的評価合計が下がった項目であったが、R2年度の水準に戻すことができた。「よくあてはまる」の評価が（61%→67%）と6ポイント上昇した。9割を超えた肯定的評価ではあるが、教育の根幹を成す教育活動なので、肯定的評価100%を目ざして取り組んでいかなければならない。
- ⑱『学校は、地震・津波・不審者など、危機に対する指導ができていると思う』の肯定的回答合計が（86%→90%）と4ポイント上がり、この項目も初めて90%を超えた。昨年度の反省をもとにより実践的な取組として、予告無しの地震対応避難訓練等を実施したことも評価向上の要因としてあげられる。ただ、数値が回復したことに安堵せず、命に直結する教育活動であるため、肯定的評価が100%となるように新たな取組を企画する必要がある。

上記以外にも①②⑦⑩⑮⑱の設問では、「わからない」と回答した生徒の割合が減っている。また、①『自分は、学校生活を楽しんでいる』の肯定的評価の合計が90%を、②『自分は、学習や生活で目標を持って学校生活を送っている』の肯定的評価の合計が80%を超えていることは、学校として嬉しい評価であり、その継続ができています。ただし、私たちが着目すべき点は、否定的回答の合計も若干増えていることである。このことへの対策を教職員で話し合い、実践していくことが必要であると考えています。

（評価が悪くなった項目）

- ⑤『自分は、本をよく読んでいる』の「ややあてはまる」(29%→17%)が12ポイント、「まったくあてはまらない」(11%→21%)が10ポイント悪くなった。肯定的評価合計が12ポイント減少し、否定的評価合計が12ポイント増加しており、読書習慣が定着していない。朝の学習の様子を見ると、本を読んでいる生徒が多いが、SNSやネットを利用する時間が増えていることが影響しているのではないかと推測する。国語科で「ビブリオバトル」等の取組を行ったり、図書委員会が読書量の多い生徒を表彰したり、改善の取組は行っているが読書習慣を確立するには至っていない。
- ⑥『自分は、家庭学習(塾を含む)を熱心に取り組んでいる』では、肯定的回答合計が(74%→67%)と7ポイント下がり、否定的回答合計が(24%→31%)と7ポイント上昇した。家庭学習を習慣づける何らかの手立て(1人1台タブレットの活用等)が必要である。
- ⑬『自分は、地域や社会の役に立つために何をすべきか考えることがある』では、同じ教育目標に掲げている⑫と対照的結果となった。肯定的回答合計が(74%→67%)と7ポイント下がり、否定的回答合計が(24%→31%)と7ポイント上昇した。1年生で行う『地域応援プロジェクト』以外にこの設問に関連する具体的な教育活動の設定が難しいことが要因としてあげられる。さらなるキャリア教育の推進が必要である。

2 保護者アンケートより

今年度から紙媒体を廃し、保護者のスマートフォンやPCを利用したFormsによるアンケートに実施形態を変更した。周知が不十分であったためか、アンケート回答率は67.1%(昨年度94.9%)に留まった。来年度は周知の徹底を図る必要がある。

アンケートは、昨年度と同じ19の問いを設けた。そのうち6問で昨年度と比べて3ポイント以上評価が向上し、10問で大きな変化は見られず、3問で3ポイント以上評価が悪くなった。昨年度に比べると改善率は低かったが、コロナ禍が丸3年続き、今年度も様々な制限や課題が課せられた1年であったにも関わらず、多くの保護者から本校の教育に対する理解ならびに支援・協力をいただいていることがこの回答に表れている。

（評価が向上した項目）

- ①『お子さんは、学校生活を楽しんでいる』の肯定的評価の合計が(88%→93%)と4ポイント上がり、初めて90%を超えた。この設問の肯定的評価の合計は4年間で(79%→83%→88%→93%)と年を追って向上し続け、年々生徒と保護者の回答のギャップが縮小してきている。肯定的評価の合計が9割を超えたことは、本当にありがたい評価であった。
- ②『お子さんは、目標を持って学校生活を送っている』についても肯定的評価の合計は4年間で見ると(61%→64%→68%→74%)と①同様に地道に継続して評価が向上している。一方、否定的評価の合計は過去4年間の推移は(31%→28%→27%→19%)となっている。今後も目標設定をする機会を多く設け、教育活動に取り組んでいきたい。
- ⑦『お子さんは、あいさつがよくできている』の「よくあてはまる」が(35%→42%)と7ポイント上昇し、肯定的評価の合計が(81%→90%)で①と同様に初めて9割に到達した。否定的評価の合計も9%まで下がった。本校の「強み」のひとつである「あいさつができる学校」が保護者にも理解していただけている。今後とも継続して指導していきたい。
- ⑩『お子さんは、清掃する・時間を守る・忘れ物をしない等の基本的な生活のきまりがきちんと身につけている』の肯定的評価の合計が(73%→79%)と6ポイント上がり、否定的評価の合計が(24%→19%)と5ポイント減少した。昨年度は生徒・保護者とも大きな変化が見受けられない項目であったが、今年度は両方とも向上が見られる設問になった。
- ⑬『教師は、生徒の悩みなどの相談に適切に対応していると思う』の肯定的評価の合計は(62%→70%→74%)、継続して評価が向上している。ただし、私たちが着目すべきは否定的評価の合計が10%あるという点である。学習指導とやらんで我々にとって核となる指導である。この良き評価を力として今後ともしっかり取り組んでいかなければならない。
- ⑰『学校行事は、生徒にとって、楽しくて、充実したものとなっていると思う』の「よくあてはまる」が(43%→49%)、肯定的評価の合計(82%→88%)で否定的評価の合計も3ポイント減少した。コロナ禍でまだ制限はあるものの、過去2年に比べると多くの学校行事を実施できたことが評価につながったと考えている。

（評価が悪くなった項目）

- ⑤『お子さんは、読書に親しんでいる』の肯定的評価の合計が(53%→46%)、否定的評価合計が(44%→50%)と今回で逆転してしまった。生徒のアンケート結果でも述べたが、SNSやネットを利用する時間が増えていることが影響していると推測している。

- ⑯『学校は、校内の環境美化や施設・設備に積極的に取り組んでいると思う』の否定的評価の合計が(3%→6%)と若干増加した。今後とも環境美化に努めていきたい。
- ⑰『学校は、地震・津波・不審者など、危機に対する指導ができていていると思う』の否定的評価の合計も(4%→7%)と若干増加した。今年度は、実践的な取組として「予告無しの地震対応避難訓練」等を行った。来年度もより実践的な取組を展開していきたい。

総じて、各設問に対する保護者の方々の理解ある回答を重ねて感謝するとともに、この結果を力にして、さらなる取組を続けていかなければならない。ただ、各設問において肯定的回答のうち「よくあてはまる」の割合が減少し、「ややあてはまる」の割合が増加して、合計で昨年度と変わらない評価という項目が散見されることは大きな課題であると考えている。加えて、設問⑭の『教師は、いじめなどのない楽しい学級づくりや仲間づくりに努めていると思う』の否定的回答合計が9%あることも⑮で触れたことと同様に、私たちが改善をめざしていかなければならない重要な点である。数値的に改善傾向にあるとはいえ、まだまだ改善すべきところはたくさんある。あくまで目標は全項目の否定的評価0%である。教職員一丸となって取り組んでいきたい。

ここ3年間は、コロナ禍で難しい面もあったが来年度は、授業参観や各種学校行事に保護者に来校いただき、学校HPも含めて、できる限り本校の取組の紹介及び広報に努め、理解と支援を広げていかなければならない。

全体としては改善傾向にあっても、アンケートの記述の欄には、厳しいご指摘もいただいている。謙虚に受け止め、反省し、誠意を持って丁寧に教育活動にあたっていくことを肝に銘じて取り組む必要がある。

昨年度もこの考察でお願いしたが、繰り返し、保護者の方々にお願いしたい。社会情勢の中で、本校においても大きな課題の一つとしてネットやSNSの弊害があげられる。学校で発覚する友人関係のトラブルがSNS等の起因することが大半になってきているのも事実である。学校でも人権講演会や出前授業、「SNS等マナーアッププロジェクト」等を展開し、今後も指導を継続していくが、ご家庭においてもスマホ等の管理や使用について、さらなるご理解と協力を繰り返すにお願いしたい。

3 教職員アンケートより

すべての教職員から回答を得ている。総じて、教職員からのネガティブな回答が減少傾向にあるが、設問⑮の「学校は、風通しの良い職場作りに努めていると思う」の「あまりあてはまらない」の割合が増えたことは、学校経営上の大きな反省点である。業務改善を含めて対応策を講じなければならない。

今年度の否定的評価0%の設問は①⑨⑩⑪⑫⑬⑯の7つであり、昨年度から1つ増えた。それらの項目は、生徒や保護者の評価改善につながっているものが多い。私たちが取り組んだことが生徒の成長につながっていることを自信とし、今後の教育活動にさらに積極的に取り組んでいかなければならない。

また、毎年同じことを述べるが、設問8～設問18については、私たち教職員や学校の取組の評価であるため、否定的評価は0%に、肯定的評価の「よくあてはまる」の割合を1%でも増やしていくように努力する必要がある。来年度からは、コロナ禍も違うフェーズに移り、これまで制限されてきた様々な教育活動が可能となることが予測される。コロナ禍において生徒の多様な体験を守ることが、大きな意味をもつことをこの3年間のアンケート結果で明らかになった。厳しい状況は今後も継続するが、全員でアイデアを出し合い、生徒の体験を少しでも守り、積み重ねていく必要がある。

繰り返しになるが、総じて、生徒及び保護者のアンケート結果が毎年改善傾向にはあるが、より改善する点はたくさんあり、厳しい指摘やお叱りもいただいている。このことを謙虚に受け止め、反省し、今後も校訓『至誠』にあるよう、誠意を持って丁寧に教育活動にあたっていくことを肝に銘じて取り組まなければならない。